

災害による萩の台線への影響について

1. はじめに

- ・H29.10 に発生した台風の影響により、鉄道のダイヤが臨時ダイヤとなっており、萩の台駅でのコミュニティバスとの乗り継ぎがうまくいかないという状況が発生している。
- ・そのため、災害の影響により、萩の台駅におけるコミュニティバスの利用者数が減少していることも考えられ、利用者数が減少している場合、災害による影響を加味せずに評価を行うことは望ましくないとと思われる。
- ・そこで本資料では、萩の台駅におけるコミュニティバスの利用者数を分析し、災害による影響が発生している場合は、補正をおこない、利用者数を推計することとする。

2. 各年 11 月におけるコミュニティバスの利用状況について

- ・図 2-1-1 は、バス停ごとにおける各年の 11 月の利用状況を示している。
- ・萩の台駅における H28.11 の 1 日平均利用者数は、9.3 人/日であるのに対して、H29.11 の利用者数は 7.2 人/日であり、利用者数は 0.77 倍(7.2 人/日÷9.3 人/日)減少している。
- ・また、鉄道を利用しない人が利用しているバス停(マックスバリュ、南コミュニティセンターせせらぎ、神田橋西)における、H28.11 の 1 日平均利用者数は、10.7 人/日であるのに対して、H29.11 の利用者数は 12.7 人/日であり、利用者数は 1.19 倍(12.7 人/日÷10.7 人/日)増加している。
- ・ここで、上記のバス停を対象としている理由として、以下のことが挙げられる。
 - ・乗降者数がおそらく多いと思われ、統計的な誤差が少ないと考えられること。
 - ・当該バス停で乗車し、鉄道に乗り換える人は少ないと思われ、鉄道の臨時ダイヤの影響を受けにくいと考えられること。

- ・鉄道を利用しない人が利用しているバス停では、1日平均利用者数が増加しているが、一方で萩の台駅での1日平均利用者数は減少していることから、災害の影響を受けていると考えることができる。
- ・さらに、災害の影響により鉄道のダイヤが臨時ダイヤとなり、表2-1-1に示す通り、待ち時間による変化（待ち時間が長くなっている）も生じていることから、災害の影響を受けていると考えることができる。
- ・ゆえに、災害の影響を加味した補正を行う必要があると考えられる。（補正方法は次頁に示す通りである。）

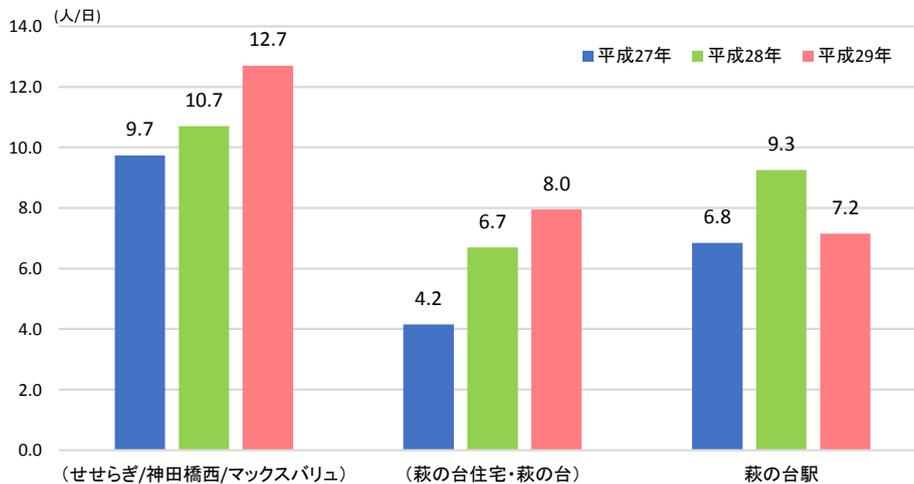


図2-1-1 バス停ごとの1日平均利用者数（各年の11月を比較）

表2-1-1 臨時ダイヤの影響による待ち時間の変化

改定前のダイヤ×近鉄(通常)ダイヤ					改定後のダイヤ×近鉄(臨時)ダイヤ				
	近鉄着	たけまる発	経路	待ち時間		近鉄着	たけまる発	経路	待ち時間
1便	8:11	8:18	萩+住	0:07	1便	8:12	8:15	萩+住	0:03
2便	9:46	9:54	住①	0:08	2便	9:02	9:09	住①	0:07
4便	10:55	11:04	住②	0:09	4便	10:33	10:50	住②	0:17
5便	11:42	11:51	萩②	0:09	5便	11:13	11:33	萩②	0:20
6便	13:16	13:20	住③	0:04	6便	12:56	13:08	住③	0:12
7便	14:16	14:19	萩③	0:03	7便	13:48	13:55	萩③	0:05
8便	15:16	15:19	住④	0:03	8便	15:16	15:37	住④	0:21
9便	15:56	15:59	住⑤	0:03	9便	15:16	15:37	住⑤	0:21
10便	16:51	16:54	住⑥	0:03	10便	16:16	16:30	住⑥	0:14
11便	16:51	17:13	住⑦	0:22	11便	16:56	17:16	住⑦	0:20
12便	17:29	17:33	住⑧	0:04	12便	17:17	17:34	住⑧	0:17

※ 臨時ダイヤの7便において、待ち時間が0:05から0:11へと伸びていることが確認できる。

3. 災害の影響を加味した補正方法及び結果について

- ・2章でも示した通り、鉄道の影響を受けにくいと考えられる「鉄道を利用しない人が利用しているバス停」の1日平均利用者数は増加しており、一方で鉄道の影響を受けると考えられる、萩の台駅での1日平均利用者数は減少している。
- ・そこで、「鉄道を利用しない人が利用しているバス停」における、H29.11の1日平均利用者数、H28.11の1日平均利用者数との倍率を用いて萩の台駅の利用者数を見直すことが望ましいと考えられる。
- ・「鉄道を利用しない人が利用しているバス停」の1日平均利用者数は、H29.11で12.7人/日、H28.11で10.7人/日であるため、昨年度に比べて1.19倍（ $\cong 12.7 \text{ 人/日} \div 10.7 \text{ 人/日}$ ）増加している。
- ・そのため、萩の台駅における利用者数も前年に比べて1.19倍増加していたであろうと推定した場合、萩の台駅における利用者数は220人/月（ $\cong 185 \text{ 人(H28年度)} \times 1.19 \text{ 倍}$ ）となる。
- ・H29.11の萩の台駅での利用者数（143人/月）との差は、77人（ $= 220 \text{ 人} - 143 \text{ 人}$ ）となるが、萩の台駅で乗車した人（利用者数）と、萩の台駅で降車した人（ $=$ 萩の台住宅, 萩の台のバス停から乗車する人）がいると考えられるため、それぞれ77人（計154人）を11月の利用者数に対して足すこととする。